

# みんなを 助ける 地域の活動

町の中には、たくさんの助け合い活動があります。困った時はお互いさま、そんな気持ちで活動している皆さんを紹介します。



▲夏の間に伸び切った枝もきれいに整えられ、「さっぱりしたわね、ありがとう」と依頼者。

## 1 宮代台「みどりの会」 で近所の助け合い

「みどりの会」は宮代台の中の「お助け組織」です。結成のきっかけは、7年前、地域の中にあつた自転車店がなくなったことでした。自転車のパンクなどで困っている人たちから、修理を頼まれることが多くなりました。

地域の高齢化が進み、一人暮らしの方も多くなったことを反映して、エアコンのフィルター掃除、電球のとりかえ、家電製品の操作方法など、家の中の簡単なメンテナンスも口コミで頼まれるようになった、と代表の渡辺さんは振り返ります。

「同じ宮代台に住むみんなと、長年、夏祭りを企画したり、当日の運営をしたりしてきたので、案外、知り合いが多くてね」と笑います。

こうして、大工仕事や庭仕事、機械いじりが好きなメンバーが集まり、平成30年、「みどりの会」の活動がはじまりました。

住んでいる皆さんは、この住宅地を造成した昭和40年代、50年代からの顔見知りが多く、ちょっとしたことを近所の仲間で助けあえれば、という気持ちが根底にあります。会員は現在11名、年間100件ペースで依頼を受けます。

みどりの会の「働きがしら」である会員の宮田さんは、「機械いじりが、ねっから好きだから、頼まれても苦にならないんだよね」と語ります。自分たちがやっていて楽しいから続いている、とメンバーたちは口をそろえます。

今回、作業を依頼した方(左写真)は、木の数も少なく、植木屋さんに頼むほどでもないが、「主人がなくなってからほったらかしだったので、とても助かる」と感謝します。すぐ近所で、昔からの顔見知りだから頼んだのだそうです。「この間はアミ戸を直してもらったのよ」と笑います。

作業の合間に、みどりの会のメンバーと依頼者との間でお茶を飲みながらの会話がはずみます。



▲大庭さん(左)は、「近所にいるマメな人に頼む、という感じ。とてもありがたく思っている」と話します。宮崎さん(右)は、「ちょっとしたことで業者に頼むほどでもない、かといって自分にはできないし、とても助かる」といいます。



▲写真左から、渡辺さん、高橋さん、宮田さん、荒木さん。会の活動は宮代台では知れ渡っているので、いろいろな依頼があるといえます。腕時計の電池交換、テレホンサポート代行、洗濯機の排水つまり、家電製品設置立ち会い、家具の移動など、さまざまです。会の活動の様子は動画でも紹介しています。QRコードから。





## 2 きらりびとみやしろ 困った時はお互いさまのNPO活動

「きらりびと みやしろ」は、平成10年に結成された「困ったときはお互いさま」をモットーにする認定NPO法人です。会員同士がおたがいに助け合うことで、住み良い宮代町にしていこうという理念を掲げています。

同法人の助け合い活動の一つが、「福祉有償運送」事業です。介護認定、障がい者認定を受けている会員を対象に、あらかじめドライバーとして登録した会員が病院や買い物、趣味の活動を目的とした送迎を行います。国土交通省の認可を受けた会員同士の助け合い活動で、ボランティア登録した運転者は現在26名、1日10件程度の利用があります。

ボランティアの皆さんは、「時間があるから、いいよ手伝うよ」といった感じで登録してくれるそうです。「義務感とかではなく、空いた時間に、自然体で無理をせず、お手伝い活動をしてきている」と担当の滝川さん。とても感謝している、と語ります。

同法人では福祉有償運送だけでなく、会員同士の助け合い活動もおこなっており、毎日5、6件の依頼があり、依頼された会員がサポートします。部屋の掃除、食事の支度やごみ収集など内容は多岐に渡ります。

自分もやってみようかな、という方は、きらりびとみやしろへ。

問 きらりびとみやしろ 助け合い活動 31・2123



▲「少しだけでも手伝えるよ。その気持ちを持つ人の輪が徐々に広がっていけば、素晴らしいですね」と左からスタッフの滝川さん、代表の島村さん。

## 3 株式会社 御用聞き

「御用聞き」は5分100円からのお手伝い会社。首都圏を中心に全国展開しているベンチャー企業です。登録した有償ボランティアが、個人や地域のお手伝いをします。宮代町では日本工業大学の学生が登録しています。

古市社長は「公共的なサービスも社協やNPOのサービスも自治会の活動もたくさんあって、状況に応じて、その中の選択肢になれば良いと考えている」と話します。宮代町での展開は令和4年から。宮代町と協定を締結し活動しています。古市さんは、「宮代町で会う町民の皆さんは、気さくでオープンな人が多く、いい町だなと感じる」と話します。

問 株式会社 御用聞き 0120・309・540



うちでも  
やってみようかな

### みんなを助ける地域の活動 講座

高齢者の困りごとを解決する「お助け人」として、地域で活躍する人材を発掘するための講座です。この紙面で紹介した当事者の話を聞いてみませんか。自分の住む地域でお助け隊を作りたいという方には町職員がサポートをします。お気軽にご応募ください。

日時 12月12日(火) 13時30分～16時(13時開場)  
※希望者は終了後説明会あり

場所 町立図書館ホール



▲「学生のうちに、いろいろ経験したかったから、ボランティア登録しました」と室岡さん。(地域 × 大学生事業)

## 4 地域 × 大学生 社協が地区・自治会と学生を取り持つ

「地域×大学生」は地域の交流事業に大学生や高校生が参加することで、高齢化で人手が足りなくなった自治会活動を応援し、ボランティアのすそ野を広げたい、と社会福祉協議会がはじめた登録制度です。7月から10月中旬までの間に11件の依頼があり、のべ39名の学生が活躍しています。

### ▶ 地区、自治会のみなさん

高齢化して地元行事がなかなか盛り上がりがないので、学生の力を借りたいという場合は、依頼書を社会福祉協議会に提出。

### ▶ 学生のみなさん(大学生、高校生)

地域の皆さんと一緒に交流し活動したいという方は、LINEでぜひ友達登録を(右QRコード)。ボランティア情報が届きます。町内在住の大学生、高校生(日本工業大学の学生、宮代高校の生徒の場合は町外在住でも可)が対象です。



問 社会福祉協議会 32・8199 制度の詳細はQRコードから

学園台自治会主催の「憩いのサロン」が10月8日に開催され、この日は「歩こう宝探し」として、学園台の中を歩く催しが開催され、登録した大学生ボランティアが活躍しました。自治会の岡村会長は、「コロナ禍が長かったので外出機会も減っているし、体力作りも必要。そして住民同士の交流も減っていると感じて企画した」と語ってくれました。集会所では子どもたちを対象とした事業も行われました。「体力のある大学生が手伝ってくれて、助かった」と岡村会長。

▼右から学生ボランティアの劉さん、室岡さん、小野さん。



内容 「経験者のお話」「町内団体PRタイム」  
「団体説明会 & 個別説明会(※希望者のみ)」  
講師 宮代台みどりの会、認定NPO法人きらりびとみやしろ、株式会社御用聞き  
定員 30名(先着順)  
対象 どなたでも  
申込 12月8日(金)までの間に電話またはQRコードから  
問 高齢者支援担当 34・1111内線383

1-6

